

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【城北小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な学習内容の定着に向けて、前学年までの内容を含め、繰り返し復習していく。また、スパイラル的な指導を意識するために学習指導要領に示された内容の系統性を明らかにしていく。 週1回の学力アップタイムでは、どの学年でも必要になる計算力を高めるための時間として位置付け、取り組む。 学習の習慣化や意欲向上に向けて、低学年から学習内容と日常生活との関連を気付かせるような指導を意識していく。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 単元どうしの学習内容のつながりなどを児童が気付いたり実感したりするような学習指導を増やしていく。また、学んだことを活用する経験も広げる。これらの学習経験から主体的に学ぶ意欲を高めていきたい。 自分の考えを書き表すために、知識・技能の領域で高めた語彙力をどのように活用するかということにおいて課題がある児童もいる。分かっていることや伝えたいことが相手に伝わるように、文章を書く機会を増やす。例えば、自分の言葉でまとめたり、振り返えたりする時間を授業の中で確認する。45分間の授業の中でICTの効果的に活用する時間の確保を含め、さらなる工夫・改善を考えていく。 該当学年で初めて学ぶ学習内容を活用して、思考したり、表現したりする機会を設けるため、算数においては授業時数の見直しを進める。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <学習上の課題> <ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の定着や獲得した知識・技能を活用すること。 <指導上の課題> <ul style="list-style-type: none"> 児童が反復・習熟に取り組む時間で、児童が自らの学びを振り返る時間を確保すること。 	⇒ <ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な学習の反復・習熟を朝の学力アップタイムや各授業時間、家庭学習を通して行う。【毎時間】 デジタル教材等も活用することで児童の学習履歴を確認して個別の支援が行えるようにする。【月1回程度】 振り返りの時間を取り、学んだこと・分かったことなどを振り返ることで、次の学びに生かせるようにする。【毎時間】
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <学習上の課題> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを根拠をもって表現すること。 視力を支える豊かな語彙力の獲得や粘り強く学習に向き合うこと。 <指導上の課題> <ul style="list-style-type: none"> 資料の見方に対する指導や根拠をもとに自分の考えを表現する活動時間を確保すること。 	⇒ <ul style="list-style-type: none"> ICTを活用し、児童の思考や考えを可視化することで、自身の表現力を高める。【毎時間】 考えを伝え合う活動では、聞き手が質問等することで、児童同士のやり取りを活性化し学びが深まるようにする。【各単元で1回以上】 児童自身が授業の中で学び方を選べる場面を設定し、自ら学びに向かう力を高められるようにする。【毎時間】

全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
 <小6・中3>(4月~5月)

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	B	<ul style="list-style-type: none"> 週1回の学力アップタイムや授業時間を通して、基礎的・基本的な学習内容の反復・習熟を各学年の実態に応じて実施した。100マス計算では全員で取り組んで状況を確認したり、デジタル教材を使って児童が自ら取り組めるようにしたりするなど行っていた。 基礎的・基本的な学習内容は保護者の依頼を通してお子さんの学習理解について把握していただいたのでドリルやデジタル教材を繰り返しの活用を引き続き行い、定着を図っていきたい。
思考・判断・表現	B	<ul style="list-style-type: none"> ICTの授業活用の機会が増え、「学びの指標」調査におけるICTに関する指標の数値が1回目と比べて上がった。 資料作成ソフトを活用し、調べたことをまとめたり、自分の考えを書き表したりするような、思考や考えを可視化する活動が増やすことができた。 デジタルと紙の良さを吟味しながら教材研究にあたった。児童自身が学びを選択できるような授業などは今後も工夫・改善に努めている。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	<p>国語では、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」と「情報の取り扱いに関する事項」の問題の平均正答率が全国・県平均を下回っていた。漢字を文の中で正しく使うことができるかを問う問題では、同じ読み方をする別の漢字を解答する児童が多く、意味や使い方も理解できるように繰り返し指導していく。</p> <p>算数では、全国・県平均を下回っているが、その差が昨年度より縮まっており、学力アップタイムなどにおける基礎・基本の積み重ねが児童の学力向上につながっていると考えられる。一方で、台形の意味や性質を問う問題や数直線上での分数の捉え方を問う問題で平均正答率が5割を大きく下回っていた。授業で基礎的・概念的な内容を扱う際に、図・数・言葉を一貫させるよう指導していく。</p>
思考・判断・表現	<p>国語では、特に「読むこと」の学習内容を問う問題の平均正答率が全国・県平均より大きく下回っていた。特に、順序を考えながら内容の大体を捉えているかを問う問題や事実と感想、意見などの関係を叙述を基に押さえて文章全体の構成を捉えているかを問う問題、目的に応じて文章を図表などを結びつけるなどして、必要な情報を見付けられるかを問う問題に課題が見られた。正確な読み取りができるよう指導を繰り返し行っている。</p> <p>算数では、無回答率が全国・県平均より低かったが、理由や求め方、幾つか分ける問題で課題が見られた。振り返りで数学的な表現を使った文章を書く力を高め、また日常的に辞書を活用して語彙力向上を目指した取組も強化している。</p>

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	<p>平均正答率をみると、全体的に市平均より下回っている指標が多い。市平均との差は学年によりばらつきがある。同集団を経年比較すると昨年度より市平均との差を縮めている学年が各教科で見られる。</p> <p>国語の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができるかを見る設問や算数の各学年で身に付けておきたい計算ができていないかを見る問題では、同集団の経年比較で正答率が伸びている学年が複数ある。週1回の学力アップタイムや授業内の課題・基本を向上させるための取組の成果がでている。</p> <p>国語の主語・述語の関係に関する問題では、学年が上がることに正答率が高くなる傾向が見られた。学習の積み重ねによって言語環境が広がり、適切に使える力が身に付いていると考えられる。</p>
思考・判断・表現	<p>平均正答率をみると、全体的に市平均より下回っている指標が多い。市平均との差は学年によりばらつきがある。同集団を経年比較すると昨年度より市平均との差を縮めている学年が各教科で見られる。</p> <p>国語では、「読むこと」の領域の問題では他の領域の問題より市平均との差が小さい。読書貯金など低学年から学校全体で取り組んでいることも影響していると考えられる。「話すこと・聞くこと」では相手意識に関する問題、「書くこと」では自分の考えを書き表すことに関する問題で市平均との差が大きくなっている。</p> <p>算数では、該当学年で初めて学習する内容に関する問題の正答率が市平均との差が大きくなっている。例えば、3年の除法、4年の二次元表、5年の単位量、6年の縮尺などの問題である。また、高学年の「変化と関係」の領域の問題でも課題が見られた。</p>

③	中間期報告	
	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	C	<ul style="list-style-type: none"> 週1回の学力アップタイムでは、デジタル教材を中心に基礎・基本の向上を図る取組を行っている。学校課題研究専門部では、デジタル教材を使って手軽に100マス計算などに取り組めるように推進している。 学習履歴の確認や振り返りの実施は今後全学年、全学年で着実に実施できるように努めている。
思考・判断・表現	C	<ul style="list-style-type: none"> 「学びの指標」調査の結果から、授業において児童が主体的に学習する際にICTを活用している活動が少ないことが分かった。ICT支援員や推進している他校の教員を講師に迎えた研修を重ね授業活用の機運を高めた。 児童が決めたたり選んだりする活動や、児童同士が考えを交流できる活動を取り入れた授業は学年の実態や学習内容に応じて引き続き繰り返し取り組んでいる。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)